

■「りふ環境まるごとフェア2019」「環境フェア2019いしのまき」に出展

下記2件のイベントにSDGsをテーマとして、出展しました。SDGsのパネルは損保ジャパン日本興亜環境財団のCSOラーニング生とともに作成しました。SDGsが国連で採択された2030年までに持続可能な社会を目指す国際開発目標であり、17の目標があること、グリーン購入はSDGsの目標12「つくる責任、つかう責任」と深くかかわりがあることを説明しました。また、コクヨ東北販売様からご提供いただいた、環境配慮製品やマイクロプラスチック問題を具体例として展示しました。

環境フェア2019いしのまきでは、東京サラヤ株式会社様に出展及び景品を提供していただきました。展示内容の説明は、CSOラーニング生を中心におこなってもらい、参加者への説明を通して、グリーン購入への理解を深めておりました。

「りふ環境まるごとフェア2019」

日時：令和元年9月15日（日）9：00～16：00

場所：利府町役場（利府町）

主催：りふ環境まるごとフェア2019実行委員会・利府町

内容：グリーン購入とSDGs

「環境フェア2019いしのまき」

日時：令和元年11月2日（土）9：30～15：00

場所：石巻市かわまち交流センター（かわべい）

主催：石巻市

内容：グリーン購入とSDGs

出展協力：東京サラヤ株式会社



■省エネルギーの取組を考えてみませんか？

省エネすれば浮いたコストは売上いらずの利益です。1度省エネすればその効果（利益）が何年も続きます。例えば、売り上げ1億円、そのうち光熱費が3パーセントを占めている場合、省エネで10%削減すると、費用が30万円減ります。営業利益率を2%とすると、売り上げを1,500万円伸ばしたのと同じ効果となります。省エネに関して、みやぎグリーン購入ネットワークの母体である環境会議所東北が各種サポートを行っております。

●温暖化と省エネセミナー（無料）

①事務所の省エネ対策 2020年4月24日(金)、5月15日(金)

開場・受付開始は14時、講演は14時30分～15時40分(70分)

②工場の省エネ対策 2020年4月17日(金)、6月12日(金)

開場・受付開始は14時、講演は14時30分～15時50分(80分)

※セミナーの詳細については、下記をご覧ください。

<http://www.kk-tohoku.or.jp/event2019/shoueneseminar.pdf>

●省エネルギー相談地域プラットフォーム事業
省エネへの関心が高い中小企業をリサーチ、無料で省エネ専門家や経営専門家を派遣して取組みを後押しいたします。この支援をもとに自治体などから補助金を受けることが可能です。※令和2年度は6月頃からの派遣を予定しております。

詳細は下記をご覧ください。

<http://www.kk-tohoku.or.jp/shouene.html>

■発行・編集 みやぎグリーン購入ネットワーク事務局

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6

TEL.022-218-5451 FAX.022-375-7797

Email : m-green@miyagigpn.net

ホームページ : <http://www.miyagigpn.net/> (みやぎ環境コミュニティサイト Green Style)

※Facebookもございますので、ご覧下さい。



みやぎGPNニュース



2020.
4

Vol.15

今回の
内容

●代表幹事の挨拶
●SDGs先進取組事例見学会
●SDGsセミナー

●SDGs出前講座
●イベントでの出展
●ご案内

■最近のCOVID19の問題で思うこと —ゼロとイチ—

代表幹事 猪股 宏（東北大学大学院工学研究科・教授）



令和になっての最初のニュースレターですが、最近では新型コロナウイルスの話ばかりで明るい話題が少なくなっておりますので、何か明るい話題を・・・と考えました。しかし、よい話題が見つかりません。こんな時こそ、スポーツが明るい話題のソースになるのが多かったわけですが、多くは中止・自粛・無観客試合・・・となっており、好成績をあげても、活気が少ないように感じます。無観客試合では、好ゲームであっても観客と選手が一体になっての盛り上がりが見られないと感じるからでしょうか。実際にあるゲームのTV中継を見ましたが、選手間でのプレーは同じであっても、試合の臨場感が・・・観客席からの熱気・応援がないために「なんか物足りない」という印象になるのでしょうか。そのような中で東京マラソンをTVで見ました。沿道での観客は例年と比較すれば大変少なかったかもしれませんが、声援もありましたし、選手がそれを感じて頑張れたということでしたので、やはり声援の力は大きいと思いました。無観客=0（ゼロ）と少数は違うのです。

この違いは、COVID19の問題でも、多方面で感じております。水際対策での“ゼロ=0”と少数の代表として“イチ=1”はたった1の違いですが、その後この1から倍々法則で拡大すればすぐにかかなり大きな数値になることは自明です。感染抑制の面でも、想定準備で訓練をしていけば、万全ではなくとも、その場で対応策を講じる場合と大きな差が生じるものと思います。

ここでの鍵は、“想定”が問題かもしれません。いつもマニュアル通りでの訓練では、例えばはじめに1の差があったとしても、惰性慣性から1が0.9→0.8と減少して、徐々に0になってしまうでしょう。脳活性化でも、ルーチン化したことをする場合に脳が活性化しないと言われております。つまり、鈍化させずに、初期の差を維持するためには、常日ごろの訓練で想像力を駆使して多様なケースについて種々の選択肢を準備し、それらへの対応策をシミュレーションすることが大事なのかなと思います。

最近、リスクマネジメントが企業活動にも要求されていますが、要求されたので準備をするのでは、上述のマニュアル化になってしまいますので、脳の活性化と同様に、企業活動の活性化、効率化につながるものと意識して、想定、シミュレーションをするのが、最終的には自分のためになると思います。

まとまりがない私見を長々と述べましたが、会員団体の皆様におかれましては独自の考えで、普段の活動の活性化を心がけて頂ければ幸いです。

■終息？収束？

SDGsは国連が2015年9月に発表して5年目を迎えます。誰も置き去りにしない社会を目指し17の目標が掲げられました。年明けからのコロナウイルス騒動は、いまだ収束の兆は見えません。誰も置き去りにしない世界を目指しているはずが、大型クルーズ船での対応の優先順位を間違えたことで重大な事態につながりました。世界中に感染拡大したコロナウイルス。真実はどこにあるのか？何が正しいのか？対策や方針が場当たり的と思える対応と治療方法に不安がよぎります。医療を含めあらゆる分野で飛躍しているはずなのにまだまだ解明されない事もあるのだと実感します。

便利さ、豊かさすべてが人間中心。感謝することを忘れかけている傲慢な人間に対する警鐘なのか？何はともあれ一日も早い解決策や対応策が見つかる事を祈る毎日です。

毎回、好評いただいている「事業所見学会」は今年度も開催予定です。日時・場所などの詳細は決定次第、ご案内申し上げます。今年も会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

■ SDGs 先進取組企業見学会

日時：令和元年11月20日（水） 主催：みやぎグリーン購入ネットワーク 共催：宮城県 参加人数：21名
見学先：リコーインダストリー株式会社東北事業所、株式会社サカモト

柴田町にあるリコーインダストリー株式会社東北事業所と株式会社サカモトを見学しました。バスでの移動時間を有効活用し2名の講師により、SDGsに関連するお話をいただきました。まず、海藤氏より、SDGsの17の目標について説明後、目標12「つくる責任つかう責任について」の解説、目標12は企業、消費者のどちらにも関連すること、エシカル消費やSociety5.0についていかに我々の生活にとって身近なことで重要であることの説明を受けました。次に、池田氏より、SDGsが大きなビジネスチャンスをもたらす市場であるという視点から、国内におけるSDGsの取組動向について、外務省、環境省、経済産業省、内閣府などの施策が紹介されました。また、神奈川県や長野県、沖縄県のSDGsの取組み、企業におけるSDGs導入プログラムの事例について紹介がありました。



<リコーインダストリー株式会社東北事業所>

リコーグループは脱炭素（RE100）目標/戦略を掲げ、2030年には30%、2050年には100%再生可能エネルギーを目指しそのため、徹底的な省エネ活動、工場再編、グリーン電力への切り替えを進めています。

リコーインダストリー株式会社東北事業所の省エネ活動、汚染防止活動、省資源活動、環境会議の開催など環境の取組みの説明を受けた後、リサイクルセンター、カラー複写機、PP機生産ライン、新濃縮装置を見学しました。リサイクルセンターでは13~14種類に分別、13:00~13:30のみ受け入れし、分別の指導をおこなっています。カラー複写機の工場では、1日71台が生産されており、搬送などは機械が実施、人は付加価値が高い作業を中心に生産を行っています。リコーでは、A3複合機に関して、自然エネルギー100%の電力を使用する体制になっています。トナー工場では、現在、廃トナーの90%以上をリサイクルし、100%リサイクルを目指しています。

リコーインダストリー株式会社東北事業所は以前より、環境の取組みを推進されておりましたが、さらに、RE100を目指した取り組みやリサイクルの取組みなど様々な活動を知ることができました。



<株式会社サカモト>

続いて、太陽の村近くの株式会社サカモトの社有林に到着しました。社有林は、宮城県と共同で行っている試験林です。木を植えて、日の当たり方による成長の違いなどを調査しています。状態の良い木だと1本当たり、15,000円程度で売れますが、運搬に2,000円、製材に約4,000円かかり、売れ残ると4,000円~5,000円となってしまう、利益が少ない状況で1,500㎡の製材をおこなっても、製品になるのは300㎡だそうです。利益率が低く手間暇がかかるため、林業の担い手が不足しています。

次は製材所に行きました。㈱サカモトは皆伐（一気に伐採する）ではなく、卓抜（選んで伐採する）という方法をとっています。皆伐すると、運搬コストは安価ですが、森の保水力が失われるなど様々な影響があるため、成長の度合いを見、山を守りながら伐採しています。製材所では、のこぎり1本で角材にする様子を見学しました。端材や木の皮などはペレットやおがくずとして使用し、捨てることはありません。参加者の多くは製材を見るのが初めてのため、興味深く見学しました。

最後は、モデルハウスを見学し、サカモトの取組みを紹介いただきました。サカモトグループは「地域との共生」を理念に活動をしています。林業事業継続が困難を極める中、木材の付加価値を求めて住宅事業へ参入しました。「①自然との絆」、「②家族との絆」、「③サカモトとの絆」を大切にされた家づくりを行っています。また、「めぐるめぐみ」の環を企業理念に森づくり・すまいづくりを通して、自然と地域の循環性・持続性の実現を目指しています。住宅づくりでは、1年に決めた戸数以上の希望があった場合は、木のことを考え、施工を待ってもらっているそうです。株式会社サカモトでは、「めぐるめぐみ」の環を知ることができました。



帰りには、池田氏より、CDP、SBT、再エネ100%宣言について説明がありました。CDPとは世界の企業に対する環境配慮への成績表のことで、数多くの投資家が参加、大手企業はCDPの点数を高めて多くの機関投資家にアピールするために、環境配慮を進めてきているとのこと。また、SBTとは、パリ協定が求める水準と整合した、5年~15年先を目標年として企業が設定する温室効果ガス排出削減目標のことで、サプライチェーン排出量の削減が求められています。大手企業と取引がある中小企業は、ある日突然、温室効果ガスの対策について、求められることもあるため、これらについて、先進的な取組みを行うことで、リスクをチャンスに変えることができるとのことのお話でした。

また、再エネ100%宣言 Re Actionについても紹介がありました。消費電力が10Gwhの企業は「RE100」に参加できたが、それ以外の企業はRe100の趣旨に賛同していても参加できなかったためにできた取り組みです。

さらに、SDGsをビジネスに導入した「大川印刷」についても紹介がありました。

■ みやぎSDGsセミナー

日時：令和元年10月31日（木） 会場：TKPガーデンシティ仙台ホール30B
共催：宮城県、みやぎGPN 参加人数：88名

2019年10月31日(木)13:00~TKPガーデンシティ仙台ホール30Bにて、みやぎSDGsセミナーが開催され、多くの方々にご参加いただきました。

第1部では、カードゲーム「2030SDGs」を体験し、SDGsの考え方や自分達の行動がどのように社会に影響を与えるかなどを教えてくださいました。

第2部では、㈱TBMの笹木様より「企業におけるSDGsの取組」をご紹介いただきました。同社は、石灰石を主原料とし、紙・プラスチックの代替えとなる日本発の新素材「LIMEX（ライメックス）」を開発しました。「LIMEX」は紙を作る際に使用する水を減らすことができ、プラスチック原料である石油も減らせる可能性がある素材です。LIMEX事業により、SDGsの目標12「責任ある消費と生産」を中心として、目標6「水資源の保全」、目標13「気候変動対策」、目標14「海洋生態系の保全」、目標15「陸域生態系の保全」、目標8「雇用の創出」、目標9「産業の創出」、目標17「協働」の8つの目標を中核目標として積極的に貢献されており、SDGsの考え方を企業に取り入れて活動しています。また、プラスチックからLIMEXを使用した入れ物に変更することをリリースした企業の株価が上がったなど、SDGsの取組みが企業価値の向上にもつながっていることなどを事例として紹介いただきました。

第3部では、講演「グリーン購入からはじめるSDGs」として、グリーン購入ネットワーク事務局の竹内様よりお話をいただきました。グリーン購入の取組みは、SDGsの12「作る責任、使う責任」に深くかかわっており、企業のSDGsの取組みを示すツールとして、「持続可能な調達アクションプログラム」というチェックリストを提唱しています。再生可能エネルギーを使用した電力を購入することがSDGsにつながるなど身近な取組みがSDGsに関わっていることが紹介されました。

■ SDGs出前講座

みやぎグリーン購入ネットワーク事務局では、令和元年度より、企業へ出向いて、SDGs出前講座を開催しております。

令和元年度は3回の講座を実施しました。

①宮城県産業廃棄物協会県南支部 平成31年4月22日（月）16:00~17:00

②㈱オイルプラントナトリ 令和元年6月29日（土）13:00~17:00

③㈱三森コーポレーション 令和元年12月25日（水）17:40~20:00

今回は、㈱三森コーポレーションで行われたSDGs出前講座を紹介します。

社員研修の一環で開催。代表取締役の久保社長は「2015年国連が発表したSDGsについて理解し、わが社の業務との結びつきと関りを知ってもらうために本日の研修を開催することにしました」と社員に向けた挨拶から始まりました。

22名の参加者を4グループに分け、それぞれが名札のあるテーブルに着席し、海藤講師による「SDGsとは」の概論の講演後、関連のビデオ上映をしました。

講師より概論を聞いた後、各グループメンバーで17の項目に紐づけする作業です。思い思いを付箋に書き、内容が一致する17の項目に当てはめ、各々活発な意見が交わされました。意見を出すうちに自分の会社と一致するところに気付き始め、より一層活発な話し合いとなりました。会社の経営理念に基づき各グループがSDGsと紐づけをし各グループが発表しました。

発表した内容を企業理念毎に整理すると、①地球の自然環境保護に寄与する、②人に優しく、人を尊重する、③人生を楽しみ、常に自己成長を目指すとなりました。

SDGsと自分たちの企業活動を具体的につなげることで、世の中の流れを知るとともに、自分たちが何をすべきかを考えるきっかけとなったと、受講された社員の方から感想をいただきました。

SDGs出前講座をご希望の方は、みやぎグリーン購入ネットワーク事務局までご連絡ください。講義だけではなく、グループワークを通じて、SDGsと企業活動を結びつけることで、今後の活動にもつながります。時間、費用などお気軽にご相談ください。

